



なないろだより



令和6年11月1日(金)
調布なないろ保育園
副園長 高橋真登香

調布なないろ保育園11月園だより

みんなでキラリ☆！！

季節外れの暑さが続いた10月…つい先日まで暑い日があったのに、この何日かで朝晩は冷え込みを感じるようになり、気付くとすっかり周囲の木々も秋らしく様変わりしてきました。涼しくなるにつれ、縁庭での活動が活発になり、戸外でのびのび遊ぶ子どもも多くなって来たように感じる今日この頃…。身体を動かしたくなる、そんな陽気になりましたね。

先月の19日(土)、幼児クラスの運動会が無事開催されました。幼児クラスそれぞれで運動会に向けてサークルタイムを重ね、運動会で何をしようか…そもそも運動会ってどんなことをするんだろう？…。そんな風に子ども達と話し、子ども達の声を拾いながら、運動会に向け、準備を進めてきました。当日参加しない乳児クラスの子ども達も、年上のお友達の姿を毎日見ながら、応援グッズを手にし「がんばれー！」と応援してくれていました。予行の日には、応援席に座ってポンポンを手に持ち、いつものように応援してくれていましたが、あら！気がつくとしっかりお兄さん達の列に並んで、一緒に競技に参加している？！中には、全クラスの全種目に参加したお友達もいました😊当日は幼児クラスだけの参加ですが、予行の風景を見ながら、普段の異年齢でのかかわりが、こんな場面でも自然に出てくるんだなあ…保育園全体の行事としてみんなで楽しみながら作ってきたんだなあ…となんだかほっこりした気持ちになりました。

そんな、みんなが楽しみにしてきた運動会ですが、実はどうしても越えられない、大きな壁にぶつかっていたお友達がいました。その子の壁は「スピーカーの音」と「マイクの声」でした。スピーカーから伝わる音や声が、どうしても怖くて耳をふさぎたくなってしまい、普段お部屋では楽しめるゲームやダンスも、涙が出てしまうくらい辛いことになっていました。初めての予行の日。ご家庭で用意してもらったヘッドホンを付けて臨みますが、やはり怖さから一緒にいた私の服をぎゅっと握ったまま、中々一歩を踏み出せません。何度か参加を働きかけてみましたが、ちょっと無理そう…。「となりにずっといて…最後まで見るから…」とすることで、そのまま一緒に席でお友達の応援をしていました。そのうち、みんなが楽しそうに競技に参加する姿を見ていたら、最後の出番の時に「先生と一緒に出る！」とようやく自ら席を立つことができ、一緒にスタートラインに…。名前を呼ばれ、担任の「よーい、ドン！」の掛け声になると、それまで固く握っていた私の手をずっと離して、そのまま一人で走り出したのです！これにはびっくり！！ゴールで待っていた担任にとびきりの笑顔で飛び込む姿を見て、ああ、本当に良かった！と涙が出そうでした。壁を一つ、乗り越えた瞬間でした。そうは言っても、本番はどうなるのか…。当日もそわそわしながらその子の登園を待っていたのですが、おとなの不安はよそに、アイテムのヘッドホンを装着して意気揚々とみんなと一緒に列に並び、笑顔で「開会の言葉」を堂々と言うことができました。その後ももちろん、お友達と笑い合いながら、最後までそれは楽しそうに参加し、満足した表情で会場を後にしたのでした。乗り越えた壁は大きな自信になった事でしょう…。また、その子の姿を自然な姿として受け入れる周りのお友達もキラキラしていました。今年のテーマは「みんながキラリ☆運動会」。まさにみんなそれぞれが楽しんで輝く瞬間のある行事になったのではないかな…と、今では述懐しています。



【11月】

- 1日(金) 歯磨き指導(幼児クラス)
- 5日(火) 焼き芋会
- 7日(木) 健康診断(0歳児)
- 8日・22日(金) 太鼓・エイサー指導(4・5歳児)
- 9日(土) 縁庭開放 / おとうさん集まれ！
- 13日(水) 5歳児秋の遠足
- 15日(金) お茶指導(5歳児)
- 18日(月) SV観察
- 20日(水) ちょうふの里訪問(5歳児)
- 21日(木) わくわく♪異年齢児交流(幼児クラス)
- 22日(金) 3歳児秋の遠足
- 26日(火) 水害水平実地訓練(4・5歳児)
- 27日(水) 素話の会「おはなしカメさん」 / おつかレー
- 28日(木) 誕生会 / おつかフェ
- 29日(金) 4歳児秋の遠足
- 30日(土) 保育講座



*寒くなってくる時期ですが、保育園では床暖房を使用していますので室内は適度な暖かさが保たれています。子どもは大人より体温が高いため、基本的には半袖肌着+長袖Tシャツ、ズボンで過ごせます。なるべく薄着の習慣をつけるよう心掛けていきましょう。

1歳になります	1人
2歳になります	1人
3歳になります	2人
4歳になります	3人
5歳になります	1人
6歳になります	2人



【12月】

- 5日(木) 健康診断(0歳児)
- 7日(土) 縁庭開放
- 9日(月) SV観察
- 10日(火) お茶指導(5歳児)
- 11日(水) 餅つき会
- 13日・20日(金) 太鼓・エイサー指導(4・5歳児)
- 19日(木) 誕生会
- 20日(金) なかよし献立の日
- 21日(土) 縁庭開放
- 25日(水) クリスマス会
- 26日(木) わくわく♪異年齢児交流(幼児クラス) / おつかフェ

遊びの中の学び ～秋～

子ども達にとって、遊びは学びです。遊びを通して資質・能力を育んでいき、その資質・能力は小学校以降の学習や生活の基盤となっていくきます。今回は、各クラスの学びを紹介します。

つぼみぐみ

ハイハイで移動していた子がいつの間にかつかまり立ちをしたり、ヨチヨチ歩きだった子が保育士と手を繋いで歩いたり活動量や行動範囲がどんどん広がってきました。

縁庭に出るとトムソーヤの滑り台まで来ておぼつかない足取りで階段を登り、滑り台を滑る時は保育士が支えていないと前のめりになってしまうこともありました。でも、何度も遊ぶうちに手すりに掴まってあっという間に階段を登ったり、ふちに掴まってスピードを調節したりと、日々学びながら遊んでいます。

また、上のクラスの子達の真似をして、滑り台の斜面を下から登ろうとする姿もあります。

日々、いろいろなことを吸収しながら学んで自分の糧にし、成長しているのだなと感じます。

ちゅーりっぷぐみ

『アゲハ蝶になるかな？』

縁庭のキンカンの木にいたアゲハ蝶のあおむしをクラスで飼い始め、毎日葉っぱを替えたり、虫かごの中をきれいにしたりしながら、世話をしていた子ども達。最近、すべてのあおむしがさなぎになり、「いつアゲハ蝶になるのかな？」と羽化を楽しみに待っているところです。今まで、捕まえた虫を虫かごで観察したことはあるものの、育てた経験をしたことはなかったので、『エサが分かり、飼う環境を整えば育てることができる』ということを知ることができたと感じています。

一足先にさくら組のアゲハ蝶が羽化したので「ちゅーりっぷ組のあおむしもそろそろなんじゃない？」とわくわくドキドキ…。ここからは、大事に育てていたあおむしが蝶になるまでの過程を経験させてあげたいな、と感じています。

すみれぐみ

この秋からは、食事や午睡の時間もたんぼぼ組の子ども達と一緒に生活する事になりました。最初はどこか緊張気味だったすみれ組の子ども達も、すっかり慣れて一緒に過ごしています。すぐ近くにいる年上のお兄さんお姉さん達の動きを見て、身体の動かし方やおままごとなどのごっこ遊びもパワーアップしてきたように思います。縁庭から部屋に帰る時も保育士が「帰るよ～」と呼び掛けても「まだ遊ぶ！」と言って帰らない子ども達。しかし、たんぼぼ組の優しいお姉さんが「もう帰ろ？」と言うとスッと手を繋いで帰ってきました。異年齢の関わり大切さを改めて感じています！

ひまわりぐみ

運動会のクラスの競技を子ども達と話し合い、自分達でこれにしようと思ったチョコザップ。当日は自信をもって楽しんでいました。こうして少しずつ、自分達で話し合いながら何かを考えたり決める経験を重ねてきている中で、まもなく楽しみにしている秋の遠足を前に4つのグループを作ることにしました。すると、グループになれば、さくら組みたいにいろんな力が発揮できるようになるとワクワクしている様子が。毎日、隣のさくら組の友達の様子を見て、グループで力を合わせると掃除や布団敷き、片付けなど様々なことができるようになるのだと言うのです。運動会のリレー競技の面白さもさくら組から教わり、生活や遊びの場面で自分達もさくら組のようになりたい、きっとなれる！という思いが増してきているようです。

たんぼぼぐみ

最近では廊下やつぼみ組、すみれ組、たんぼぼ組の部屋好きな場所で好きな遊びをする事ができ、給食の部屋や昼寝の部屋もすみれ組と一緒にになり、小さい子ども達と過ごす中で自分達がお兄さん、お姉さんという気持ちが育っているなと感じます。泣いていたら「どうしたの？」と頭をなで、優しい声をかけてあげる子ども達。これからもそんな気持ちが沢山育つといいなと思います。

また、運動会をきっかけにさくら組のリズム遊びに参加したり、リレーを見学したりとお兄さんお姉さんとの関わりも増えてきました。迫力ある動きを見て、こんな風になれたらなと憧れを抱き、今後も色々挑戦できるようになるのが楽しみです。そしてこれからの季節、幼児のクラスと一緒に散歩も楽しみたいです。

さくらぐみ

さくら組はこの秋は運動会に向けての期間を通して、友達や大人とやり取りをしてたくさん経験をしました。特にリレーでは初めは子ども同士で行って「あ～楽しい♪」から少しずつ勝ち負けを意識して怒ったり、泣いたりする子もいました。そのなかで「どうやったら勝てるか？」「どうして負けたのか？」と思うようになり、それについて子ども達同士で話をして考えるようになりました。そして「バトンをもらう人は手を挙げて名前を呼べば次に誰に渡すか分かる！」などのアイデアが子ども達の中から生まれてみんなで意識をするようになっていきました。

人と関わっていくことでたくさん経験をしているさくら組です。